

16. 師範学校規程の改定と青山師範学校

- ① 1931（昭和6）年の規程改定により、本科第二部の修業年限が2年に延長
- ② 青山師範学校では、学生健康や知能等を図る調査部、郷土研究部、精神文化研究室などを設置

解説

1930年代、軍国主義的な傾向が強まると、1935（昭和10）年に青山師範学校では日本国民の精神文化を研究する精神文化研究室が設置された。1936（昭和11）年4月には、30年間存続した赤坂区青山5丁目から、世田谷区下馬の鉄筋コンクリートの新校舎に移転した。1931（昭和6）年の師範学校規程改定の影響を受けて、中学校卒業者を対象とする第二部の入学生が増えたため、大泉師範学校が新設される。

青山師範学校の新校舎・寄宿舍・附属小



寄 宿 舎



附 属 小 学 校



校長 坂本 貞一 氏 校長 坂本 貞一 氏

出典：東京府青山師範学校『創立六十年青山師範学校沿革史』（1936年）より

18. 大泉師範学校の開校と師範学校の「官立」化

- ① 東京府大泉師範学校が開校
- ② 1938（昭和13）年4月大泉師範はわが国初の本科第二部のみで設置
- ③ 1943（昭和18）年の師範学校令の改正により師範学校は「府県立」から「官立」となり、東京府の師範学校も「官立」に移管

解説

東京府大泉師範学校が東京市板橋区東大泉（当時）の地（練馬区）に開校した。1938（昭和13）年4月初、本科第二部のみで設置された。

1943（昭和18）年3月、師範学校令の改正によって、師範学校は「府県立」から「官立」に移行し、改正師範教育令の施行に伴い、同年4月1日付けで東京府の師範学校も「官立」となった。東京府青山師範学校は官立東京第一師範学校男子部に、東京府女子師範学校は官立東京第一師範学校女子部に、東京府豊島師範学校は官立東京第二師範学校に、東京府大泉師範学校は官立東京第三師範学校に、それぞれ移行した。



「大泉師範学校の正門（昭和13年）」

出典：『創立60周年記念誌』（東京府大泉師範学校同窓会・東京第三師範学校同窓会・東京学芸大学東京第三師範学校同窓会、1999年）より転載

19. 東京青年師範学校の開校

- ① 1920（大正9）年、東京府青梅町（青梅市）に東京府立農業教員養成所（東京府立農林学校附設）設立
- ② 東京府立農業教員養成所はその後、東京府立農業補習学校教員養成所（1921年）、東京府立青年学校教員養成所（1935年）へと発展
- ③ 1944年の師範学校令の改正により、同年、官立東京青年師範学校となった

解説

1920（大正9）年、東京府青梅町に東京府立農業教員養成所（東京府立農林学校の附設）が設立された。東京府立農業教員養成所はその後、東京府立農業補習学校教員養成所（1921年）、東京府立青年学校教員養成所（1935年）へと発展した。1937年、東京府立青年学校教員養成所（1935年）は東京市目黒区駒場町の農業教育専門学校の附設となり移転し、のち1939年に東京府立青年学校教員養成所は赤坂区青山北町の旧青山師範学校校舎跡に再移転した。当時、赤坂区青山北町の旧青山師範学校校舎跡には府立第十二中学校などが併設されており、寄り合い所帯であった。そのため1940年に東京府立青年学校教員養成所は調布町に建てた新校舎に移転し、1943年の都制施行に伴い東京府立青年学校教員養成所と改称し、1944年の師範学校令の改正により同年に官立東京青年師範学校となった。



左：東京府立農業補習学校教員養成所（青梅）正門（大正12年）

右：東京青年師範学校（調布）校舎

出典：いずれも『東京学芸大学二十年史』より転載

20. 師範学校生活と軍国主義化

- ① 1925（大正14）年以後、東京府の師範学校において、現役将校配属と軍事講習を実施
- ② 学校行事の実施と、学校経営・生徒指導が組織化
- ③ 学寮・寄宿舎の改革の実施

解説

1925（大正14）年4月、「陸軍現役将校学校配属令」が公布され、中学校・師範学校などの男子生徒の教練担当者として、陸軍の現役将校が配置された。青山師範学校でも、上級学年対象の軍事講習が行われた。同師範学校『校報』の行事予定表によると、第一部5年生と第二部生は夏期休暇中の2週間、第一部4年生は冬期休暇中の一週間訓練が実施された。またこの時期青山師範学校では、朝礼、孔子祭、松陰神社参拝、靖国神社参拝などの学校行事が開始された。一方、豊島師範学校では、寮生活における人格形成を重視し、通学生をなくして、生徒全員を寮生とする学寮改革が実施された。これらの改革は、「新教育」的側面もあったが、一方で、軍国主義化の流れを汲むものでもあった。

参考文献：東京都教育研究所『東京都教育史（通史編三）』（1996年）



第一回軍事講習会時

1925（大正14）年 第一回軍事講習の実施

出典：『創立六十年青山師範学校沿革史』1936年より

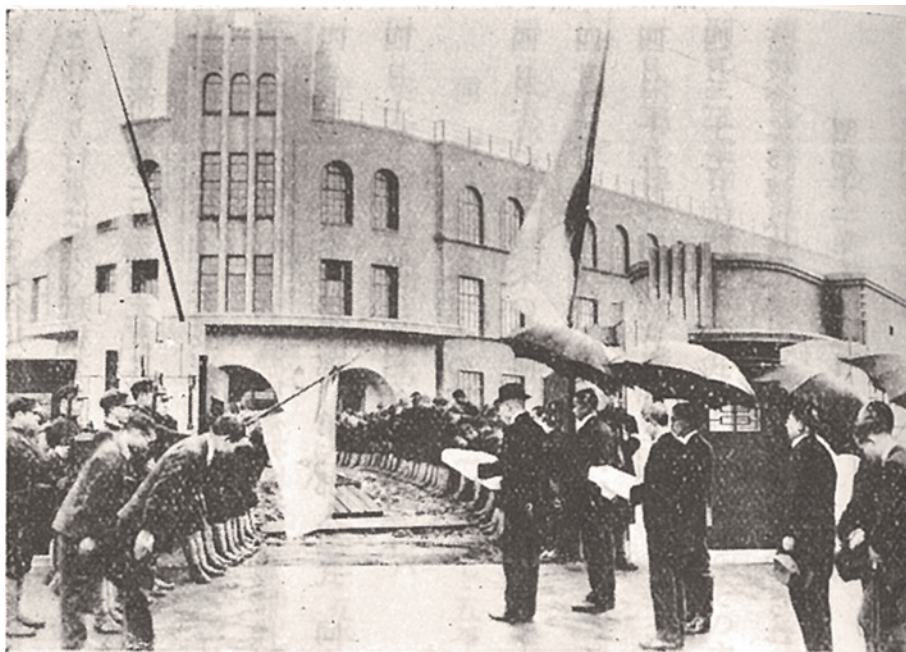
21. 戦時下における師範学校での生活

- ① 戦時下、東京第一師範学校の授業は「研究」という名目の自習時間、学校行事、勤労働員に変更
- ② 1938（昭和13）年、文部省通達「中等学校ノ集团的勤労作業運動ノ実施ニ関スル要項」を機に、東京府の師範学校でも、勤労働員が開始
- ③ 1940（昭和15）年、校友会・学級自治会・国防研究会などを一元的に総括する「青山師範学校学徒隊」が発足した

解説

東京第一師範学校では、各授業が「師範学校規程」通りに行われていたが、実際は各授業が「研究」という名目の自習時間、学校行事、勤労働員に代えられていた。国家・天皇への忠誠心を強化するための諸行事・訓練が戦時下の師範学校生活の重要な部分を占めるようになった。1938（昭和13）年、文部省通達「中等学校ノ集团的勤労作業運動ノ実施ニ関スル要項」を機に、東京府の師範学校でも、勤労働員が開始された。青山師範学校では、夏季休暇を利用して、学校付近の市道路の補修整備に奉仕した。また、1940（昭和15）年、校友会・学級自治会・国防研究会などを一元的に総括する「青山師範学校学徒隊」が発足し、夏季休暇を利用して勤労奉仕を実施し、陸軍兵器補給に従事した。

参考文献：東京都立教育研究所『東京都教育史通史編四』（1997年）



遷奉舎校新影眞御

1936（昭和11）年の新校舎設立

出典：『創立六十年青山師範学校沿革史』1936年より